

誰が堤防をつくるのか

津市長 前葉 泰幸



津市の海岸堤防は、昭和28年の台風13号と昭和34年の伊勢湾台風による被害を契機として整備されたものがほとんどです。築造から50年以上が経過し、老朽化による防護機能の低下が懸念されています。

現在、津南部の香良洲から栗真町屋までの海岸堤防は、国が抜本的な改修を加えています。この一帯は重要港湾・津松阪港の区域として、平成4年度から始まった国直轄の事業が計画的に進められているのです。香良洲漁港海岸については、津市の管理のもとで事業を実施し海岸保全施設の整備を完了しています。

昨年春には志登茂川北側の三重大学から栗真環境公園まで1.5kmの堤防改良工事が完成しました。高さは6m、液状化対策のための地盤改良工事も施され、高潮だけでなく津波への備えも強固なものとなっています。本年度は志登茂川河口付近と阿漕浦・御殿場工区の事業が進行中ですが、さらに北の白塚河芸地域の皆さまからも整備を求める声が多く寄せられてきています。

ところが、これらの堤防は国のものではありません。栗真環境公園から北へ1.2kmは三重県、その北1kmは白塚漁港で津市、さらに0.8kmの県の堤防を挟み、河芸漁港1kmは市、以北の2.9kmは県のもの、と海岸の管理者が複雑に入り組んでいるのです。

県や市が海岸堤防をつくり直そうとしても、その巨額の事業費を自治体独自で賄うことは困難です。国の交付金を受けて財源とする必要がありますが、それには国に交付金獲得のための要望活動を行うところから始めなければなりません。津北部海岸の場合、県管理部分を所管するのは国土交

通省水管理・国土保全局で、市管理部分は水産庁になります。

近年、南海トラフ巨大地震等による大規模な津波の発生が危惧される中、住宅が密集する津北部海岸堤防沿いの地域住民の不安と整備への願いは切実です。国に津南部の直轄事業を確実に推進すると同時に、北部海岸堤防の整備についても交付金の対象事業として選んでいただくために、知事のご支援と県の担当部局のご尽力、そして国会議員のお力添えをいただきながら、市長として各省庁への要望活動を続けてきました。

本年6月からは東海市長会長に就任し、静岡・愛知・岐阜・三重の96の市長を代表する立場で、要望や協議のため国の省庁を訪ねる機会が増えてきています。これまでも中部国道協会会長として国土交通省を訪問したり、三重県漁港漁場協会会長として水産庁との協議の場に参加したりする機会が多かったこともあって、今では、事業を所管する長官や局長をはじめとする幹部と顔がつながり、津市の実情を丁寧にお聞きとりいただけるようになりました。所管する事業全体を見渡す立場にあり個々の事業内容にも精通する担当幹部との面談は常に真剣勝負です。津市の事業の重要性にご納得いただけるよう、毎回入念な準備をして臨みます。大きな権限を持つ彼らが地図と首っ引きで現地の画像を確認し、事業を進めるために知恵を絞ってくださるのも、こうした近しい信頼関係ができてきたからだと思っています。

津北部海岸については、平成25年度より整備に必要な調査を実施していた県が、来年度、上野地区から高潮及び地震・津波対策工事に着手することを表明しました。厳しい財政状況の中での県の決断で、北部海岸堤防問題は新しい局面を迎えます。約7kmにわたる海岸すべての堤防の整備が事業化されるためには、地区ごとに複雑に絡み合う問題のひとつひとつに粘り強く向き合っていく覚悟が必要です。県との連携のもと、これからも真摯に堤防事業の推進に向けた取り組みを続けてまいります。

「TV版市長コラム」では、前葉市長がこのテーマについて語ります



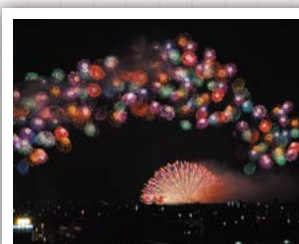
津市長コラム

検索

市長の活動日記から



✓津市・上富良野町友好都市提携20周年記念事業(上富良野町)…7月15~17日
開拓の祖、田中常次郎氏は安東地区出身、十勝岳噴火災害からの復興に尽力した吉田貞次郎村長は一身田出身。両都市の絆です。



✓第66回津花火大会(阿漕浦海岸)…7月29日
今年も1万発。「津ならではの夏・華・美」と題し、虹の架け橋カラフル花火など、新たな魅力を加え、夜空を七色に染めました。

「市長活動日記」は津市ホームページでご覧になれます

津市長活動日記

検索